

河川事業の再評価説明資料

阿賀野川総合水系環境整備事業

平成３０年１１月

北陸地方整備局

目 次

1. 流域の概要	P 1
2. 事業概要	
①佐野目地区水辺整備事業[継続]	P 2
②横越地区水辺整備事業 [完了]	P 7
③阿賀川自然再生事業 [継続]	P 11
④阿賀野川自然再生事業 [継続]	P 15
3. 事業を巡る社会情勢	P 19
4. 費用対効果	P 20
5. 事業の必要性、進捗の見込み等	P 22
6. 対応方針（原案）	P 23
別冊 費用対便益算出資料 [様式集]	

1. 流域の概要

- ・阿賀野川は、その源を栃木、福島県境の荒海山(標高1,580m)に発し、会津盆地を貫流した後、新潟県と福島県の県境で阿賀川から阿賀野川と名称を変え、五泉市馬下で越後平野に出て、新潟市で日本海に注ぐ一級河川(図1-1,2)。
- ・阿賀野川総合水系環境整備事業では、水辺整備事業(2箇所)、自然再生事業(2箇所)を実施している。

(1) 阿賀野川水系 流域の概要

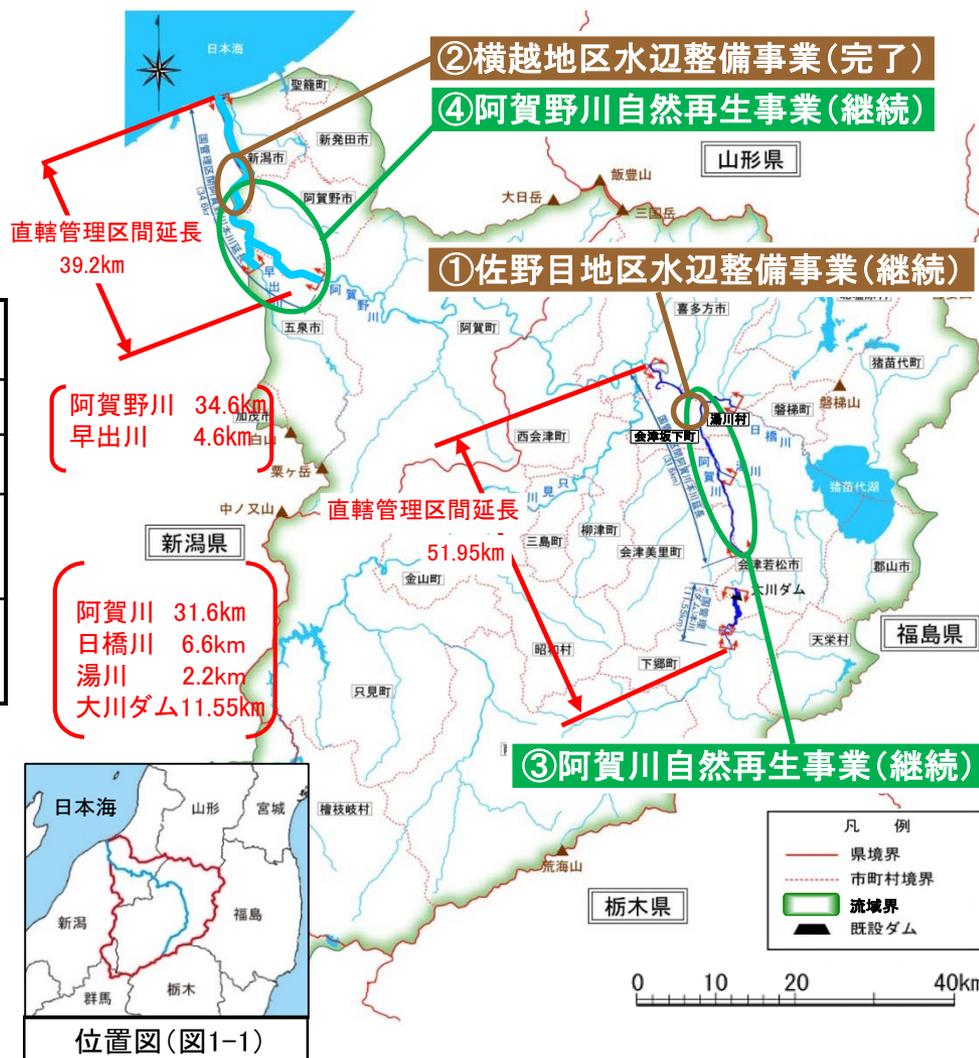
- 流域面積 : 7,710km²
- 幹川流路延長 : 210km (源流: 荒海山)
- 流域内市町村 : 9市13町6村

(2) 阿賀野川総合水系環境整備事業

事業区分	箇所	対象箇所の自治体	備考
水辺整備	①佐野目地区	ゆかわむら あいづぼんげまち 湯川村、会津坂下町	再評価
	②横越地区	にいがたし 新潟市	完了箇所評価
自然再生	③阿賀川	あいづわかまつし あいづみさとまち ゆかわむら 会津若松市、会津美里町、湯川村、あいづぼんげまち またかたし 会津坂下町、喜多方市	再評価
	④阿賀野川	にいがたし あがのし ごせんし あがまち 新潟市、阿賀野市、五泉市、阿賀町	再評価

(3) 事業の計画年度

事業区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	~	H38	H39	
水辺整備	①佐野目地区																			
	②横越地区																			
自然再生	③阿賀川																			
	④阿賀野川																			



阿賀野川水系流域図(図1-2)

2. 事業概要 ①佐野目地区水辺整備事業[継続]

(1)事業目的

- ・ 阿賀川の魅力ある河川空間を、地域住民の交流拠点及び地域活性化の拠点とするため、佐野目地区において、かわまちづくり(川の駅)、河川防災ステーション(人の駅)、道の駅、の三位一体となった事業を実施し、平成26年度に第1期事業が完成した(写真2-1)。
- ・ 完成後の各施設は多くの利用者で賑わっており、さらなる地域振興、地域の方々の交流と健康増進、加えて観光に資することを目的とし、「佐野目地区かわまちづくり計画」の拡張(第2期)事業として水辺整備が求められている(写真2-2,3)。

■ 整備箇所の現状と今後の整備範囲



佐野目地区の現状(写真2-1)



川の駅の利用状況(写真2-2)



道の駅の盛況(写真2-3)

2. 事業概要 ①佐野目地区水辺整備事業[継続]

(2) 事業内容

- ・阿賀川あいがわの良好な河川空間を利用し、国と地元自治体あいつぼんげまち(湯川村・会津坂下町)が連携した水辺整備を実施。第1期では親水護岸や多目的広場の整備を実施した(図3-1,2)。
- ・第2期では利用者や地元関係者からの要望を踏まえ、各エリアを整備し、利用者増大を図るものである(図3-1,2)。

■ 事業概要

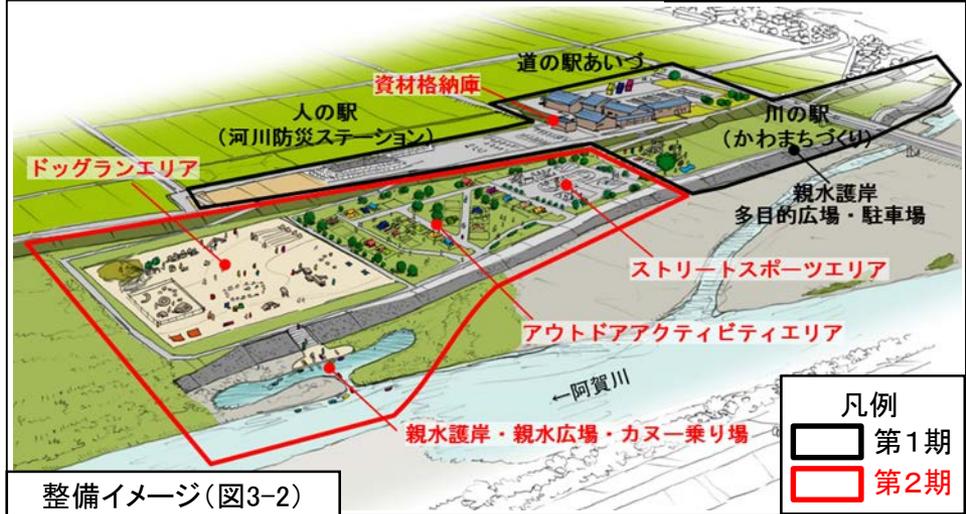
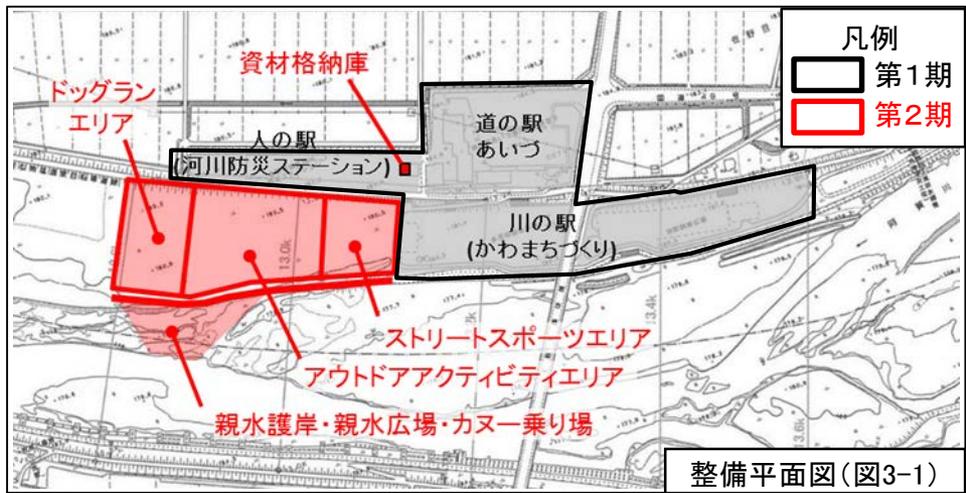
	環境整備事業 (国土交通省)	関連事業	全体
総事業費	約6.4億円	約19.1億円	約25.5億円
事業期間	H21～H38	H21～H34	H21～H38
進捗済額 (H30年度末)	約2.5億円	約18.5億円	約21.0億円
進捗率 (H30年度末)	39%	96%	82%
整備内容	【第1期・整備済】 親水護岸、高水敷 改正	【第1期・整備済】 多目的広場、駐車場、道 の駅あいづ	—
	【第2期・整備予定】 親水護岸、高水敷 改正	【第2期・整備予定】 ストリートスポーツエリア、アウト ドアアクティビティエリア、ドッグラン エリア、資材格納庫	

■ 整備予定のイメージ



整備予定イメージ(写真3-1)

■ 整備範囲及び整備イメージ



2. 事業概要 ①佐野目地区水辺整備事業[継続]

(3) 事業計画

・事業の具体化にあたっては、「佐野目地区かわまちづくり協議会」(平成29年度設立)が中心となり、湯川村・会津坂下町と、関連する周辺団体と連携しながら事業を推進していく。

項目	事業計画	
	前回評価時(再評価)	今回評価時(再評価)
目的	阿賀川の魅力ある河川空間を、地域住民の交流拠点及び地域活性化の拠点とするため、第1期事業を実施した。施設は多くの利用者で賑わっており、さらなる地域振興や、地域の方々の交流と健康増進、加えて観光に資することを目的とし、第2期事業として水辺整備を行う。	
事業期間	全体:平成21年度～平成26年度 【環境整備事業(国土交通省)】:平成21年度～平成23年度 【関連事業(国土交通省)】:平成23年度～平成26年度 【関連事業(自治体)】:平成21年度～平成26年度	全体:平成21年度～平成38年度 【環境整備事業(国土交通省)】: 平成21年度～平成33年度 整備実施 平成34年度～平成38年度 整備実施後のモニタリング実施 【関連事業(国土交通省)】:平成23年度～平成26年度 【関連事業(自治体)】:平成21年度～平成34年度
総事業費	全体:約21.0億円 【環境整備事業(国土交通省)】:約2.5億円 【関連事業(国土交通省)】:約3.4億円 【関連事業(自治体)】:約15.1億円	全体:約25.5億円 【環境整備事業(国土交通省)】:約6.4億円 【関連事業(国土交通省)】:約3.4億円 【関連事業(自治体)】:約15.8億円
進捗率	全体:約21.0億円(100%) [H27年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約2.5億円(100%) 【関連事業(国土交通省)】:約3.4億円(100%) 【関連事業(自治体)】:約15.1億円(100%)	全体:約21.0億円(82%) [H30年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約2.5億円(39%) 【関連事業(国土交通省)】:約3.4億円(100%) 【関連事業(自治体)】:約15.1億円(96%)
整備内容	【環境整備事業(国土交通省)】:高水敷整正、親水護岸等 【関連事業(国土交通省)】:道の駅 【関連事業(自治体)】:多目的広場、駐車場、消防訓練広場等	【環境整備事業(国土交通省)】:高水敷整正、親水護岸等 【関連事業(国土交通省)】:道の駅 【関連事業(自治体)】:多目的広場、駐車場、消防訓練広場、 ストリートスポーツ、アクティビティ広場等

2. 事業概要 ①佐野目地区水辺整備事業[継続]

(3) 事業計画

・事業の具体化にあたっては、「佐野目地区かわまちづくり協議会」(平成29年度設立)が中心となり、湯川村・会津坂下町と、関連する周辺団体と連携しながら事業を推進していく。

項目	事業計画、今回評価時(2期分のみ)
目的	阿賀川の魅力ある河川空間を、地域住民の交流拠点及び地域活性化の拠点とするため、第1期事業を実施した。施設は多くの利用者に賑わっており、さらなる地域振興や、地域の方々の交流と健康増進、加えて観光に資することを目的とし、第2期事業として水辺整備を行う。
事業期間	全体:平成31年度～平成38年度 【環境整備事業(国土交通省)】:平成31年度～平成33年度 整備実施 平成34年度～平成38年度 整備実施後のモニタリング実施 【関連事業(自治体)】:平成31年度～平成34年度
総事業費	全体:約4.6億円 【環境整備事業(国土交通省)】:約3.9億円 【関連事業(自治体)】:約0.7億円
進捗率	全体:約0.0億円(0%)[H30年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約0.0億円(0%) 【関連事業(自治体)】:約0.0億円(0%) ※Ⅱ期計画に向けた、準備及び現地踏査を実施。
整備内容	【環境整備事業(国土交通省)】:高水敷整正、親水護岸等 【関連事業(自治体)】:ストリートスポーツ、アクティビティ広場等

2. 事業概要 ①佐野目地区水辺整備事業[継続]

(4)事業投資効果

- ・第1期事業で一体的に整備された「道の駅あいづ」は、県内1位の集客数を誇る道の駅となっている。また、地域のさまざまなイベントが開催され賑わいをもたらしている(写真6-1,2,3,4,図6-1,2)。
- ・第2期事業では、利用者やかわまちづくり協議会等からの多様なニーズに基づき「アウトドアアクティビティ」、「ドッグラン」、「ストリートスポーツ」の施設を整備することで、若年層の利用者数の増大が期待されている(写真6-5,6)。
- ・特に「川の駅」としての機能を充実させることによって、カヌー教室等による自然体験を活かしたアウトドアイベントを開催することにより、さらなる河川の利用を目指す。

■整備後の多目的広場利用状況



水合戦の様子(写真6-1)



カヌー教室(写真6-2)

■整備予定イメージ



ドッグラン(写真6-5)



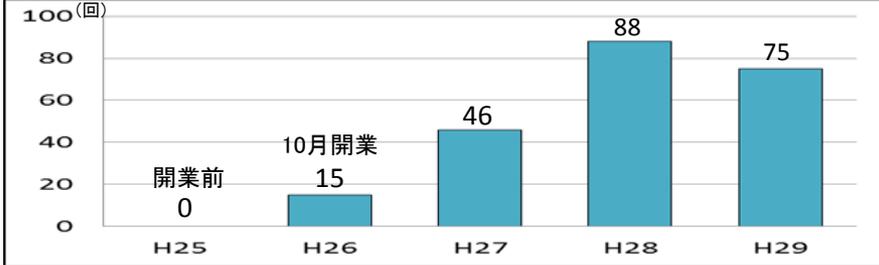
パークゴルフ(写真6-6)



新米まつりの様子(写真6-3)



魚つかみ大会(写真6-4)



年間イベント回数(図6-1)

福島県内 道の駅 入込客数			(単位:人、%)		
順位	市町村	調査集計地点	28年計	27年計	伸び率
1	湯川村	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	1,075,585	1,053,155	2.1
2	磐梯町	道の駅ばんだい	1,068,972	1,054,081	1.4
3	二本松市	道の駅「安達」下り線	935,085	313,282	198.5
4	二本松市	道の駅「安達」上り線	857,292	295,001	190.6
5	南相馬市	道の駅南相馬	556,401	600,174	△7.3
6	下郷町	道の駅しもごう	497,170	515,338	△3.5
7	西会津町	道の駅にしあいづ	494,806	403,865	22.5
8	いわき市	道の駅よつくら港	483,531	544,270	△11.2
9	相馬市	道の駅そうま	423,085	469,267	△9.8
10	喜多方市	道の駅ふれあいパーク喜多の郷	412,583	399,122	3.4

出典:福島県観光客入込状況(H28年度分) 福島県HP

道の駅 あいづ 入込客数(図6-2)

2. 事業概要 ②横越地区水辺整備事業[完了]

(1) 事業目的

・横越地区水辺整備事業は、地域住民が憩い交流する拠点となるよう、阿賀野川の豊かな自然を活かした親水空間の創出を目的として水辺整備事業を行った。

(2) 事業概要

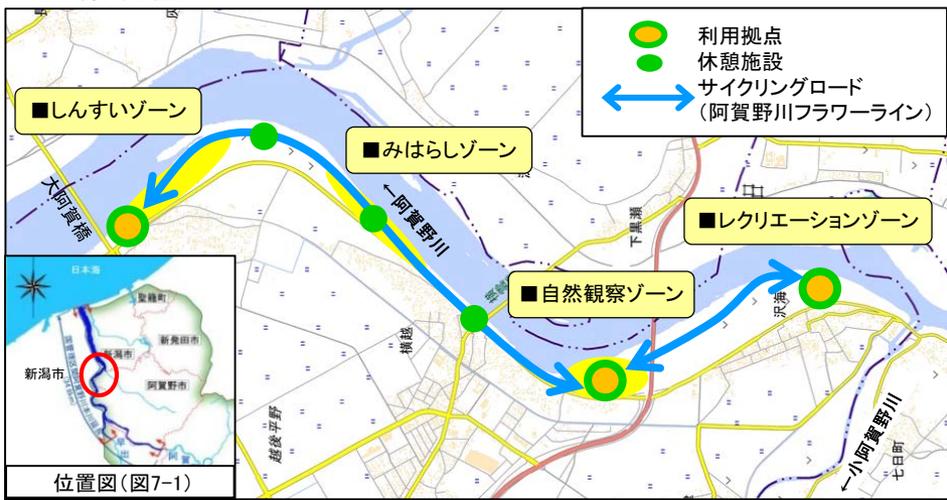
・事業にあたっては、阿賀野川フラワーライン事業と連携した「新潟市かわまちづくり」計画(平成21年度認定)に基づき、新潟市と連携しながら事業を推進し、横越地区の整備が平成25年度に完成した(写真7-1,2図7-1,2)。

■ 事業概要

	環境整備事業 (国土交通省)	関連事業	全体
総事業費	約9.9億円	約8.5億円	約18.3億円
事業期間	H20～H24	H20～H25	H20～H25
進捗済額 (H30年度末)	約9.9億円	約8.5億円	約18.3億円
進捗率 (H30年度末)	100%	100%	100%
整備内容	緩傾斜堤防 親水護岸等	公園整備等	-

※表示桁数の関係で、合計値が不一致

■ 整備範囲



整備平面図(図7-2)



整備前後の状況(写真7-1)



整備前後の状況(写真7-2)

2. 事業概要 ②横越地区水辺整備事業[完了]

(3)事業内容

- ・雄大な阿賀野川の自然を眺めながら散策等ができるよう、管理用通路を阿賀野川フラワーラインとして整備を行った。
- ・阿賀野川フラワーライン上に、自然観察やイベント等に活用できる4つの利用拠点「しんすいゾーン」「みはらしゾーン」「自然観察ゾーン」「レクリエーションゾーン」として整備を行った(写真8-1,2,3,4)。

■自然観察ゾーン(豊かな自然を観察できるよう、観察歩道、観察デッキ等を整備)



整備前の状況(写真8-1)



整備後の自然観察施設の状況(写真8-2)

■レクリエーションゾーン(身近なスポーツやイベントを楽しめるよう、親水護岸等を整備)



整備前の状況(写真8-3)



整備後の親水護岸の状況(写真8-4)

2. 事業概要 ②横越地区水辺整備事業[完了]

(4)事業計画

- ・ 地域住民が憩い交流する拠点となるよう、阿賀野川の豊かな自然を活かした親水空間の創出を目的として水辺整備を実施し、平成25年度に完成した。

項目	事業計画	
	当初評価時	完了箇所評価
目的	地域住民が憩い交流する拠点となるよう、阿賀野川の豊かな自然を活かした親水空間の創出を目的として整備する。	同左
事業期間	全体：平成20年度～平成24年度 【環境整備事業(国土交通省)】：平成20年度～平成24年度 【関連事業(自治体)】：平成20年度～平成24年度	全体：平成20年度～平成25年度 【環境整備事業(国土交通省)】：平成20年度～平成24年度 【関連事業(自治体)】：平成20年度～平成25年度
総事業費	全体：約22.8億円 【環境整備事業(国土交通省)】：約11.0億円 【関連事業(自治体)】：約11.8億円	全体：約18.3億円 【環境整備事業(国土交通省)】：約9.9億円 【関連事業(自治体)】：約8.5億円
整備内容	【環境整備事業(国土交通省)】：緩傾斜堤防、親水護岸等 【関連事業(自治体)】：公園整備等	同左

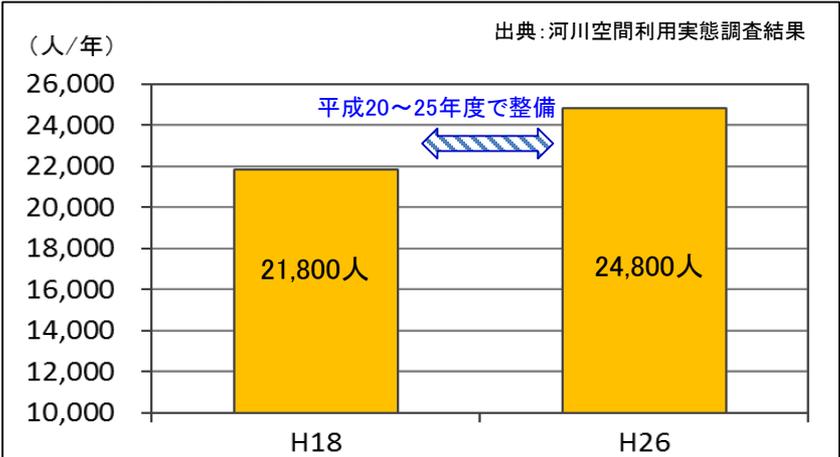
※表示桁数の関係で、合計値が不一致

2. 事業概要 ②横越地区水辺整備事業[完了]

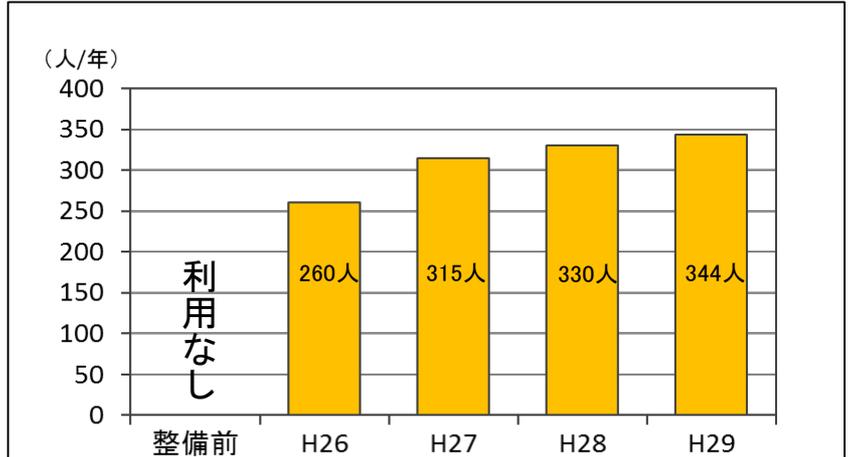
(5) 事業投資効果

- ・各拠点の整備により、水辺での環境学習など、阿賀野川の自然とふれあい、親しむ場として利用されている。また、親水護岸や公園整備により、乗船体験など水辺に親しめるイベントや日常における憩いの場が創出された(写真10-1,2)。
- ・事業前に比べて年間利用者数が増加しており、今後も利用が期待される(図10-1,2)。

■利用者数の推移



横越地区年間利用者数の推移(図10-1)



自然観察会等の参加者数の推移(図10-2)

■ボートなどの乗船体験会



親水護岸での乗船体験

利用状況(写真10-1)

■地元小学生による自然観察会での現地説明状況



利用状況(写真10-2)

2. 事業概要 ③阿賀川自然再生事業[継続]

(1) 事業目的

- 阿賀川は、砂利採取等により低水路と高水敷の比高差が拡大し、みお筋の固定化により本来の礫河原が減少し樹林化が進行した。これに伴い、河原に依存するカワラハハコ等の植物、河原を生活の場とするカワラバツタやコチドリ等の昆虫類・鳥類などの生息・生育・繁殖の場が減少した。また、比高差の拡大により瀬・淵等が減少し河川環境が単調化したため、魚類や底生動物等の生息・生育・繁殖環境が減少傾向にある(写真11-1,2,3,図11-1)。
- 阿賀川らしさである礫河原や瀬淵を有す水辺環境の保全再生を図るため、自然再生事業を実施している。

■ 河川の状況



昭和50年代後半の阿賀川(写真11-1)



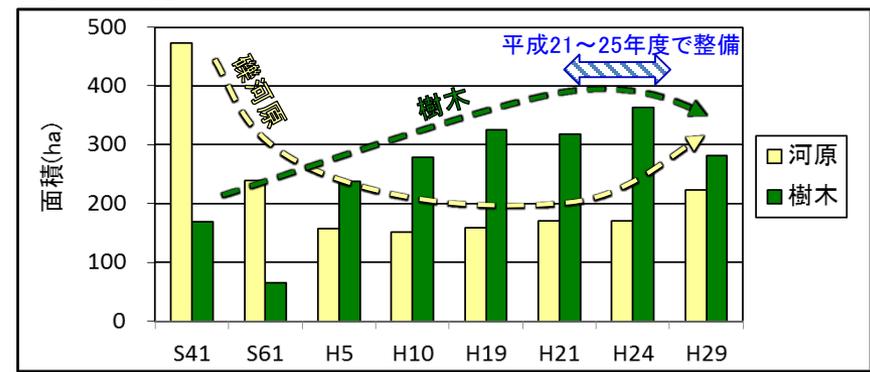
平成18年の阿賀川(写真11-2)

■ 河原を好む動植物



河原を主な生息・生育・繁殖環境とする動植物(写真11-3)

■ 河川環境の変化



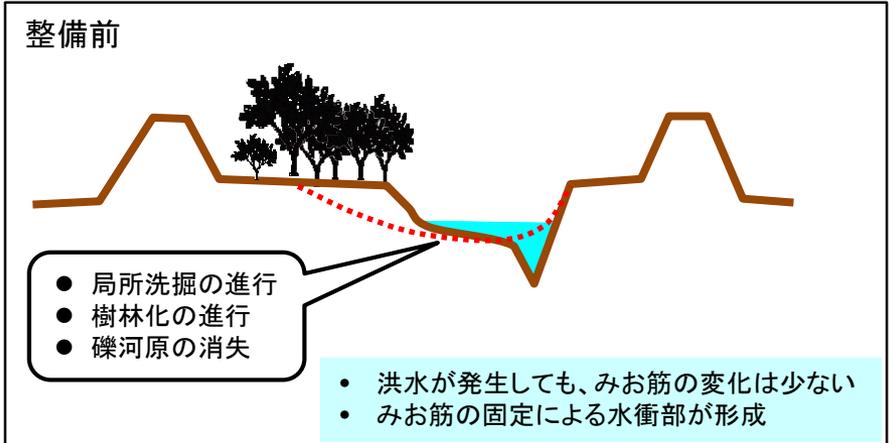
河道内の樹林・礫河原面積の推移(図11-1)

2. 事業概要 ③阿賀川自然再生事業[継続]

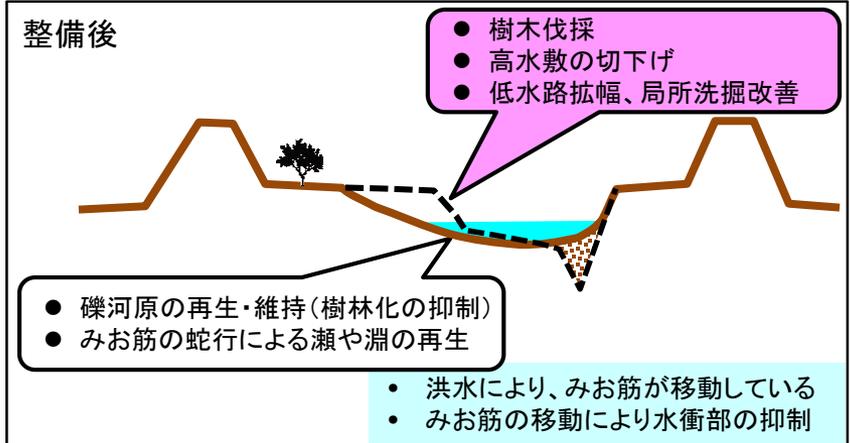
(2) 事業内容

- ・中州や高水敷の切下げ、樹木伐採等により洪水時に河道内で冠水・攪乱する範囲を広げ、樹林化しにくい環境にすることで礫河原を再生・維持する。また、洪水流が流下することで、瀬や淵の再生を図る(写真12-1,2,図12-1,2)。
- ・整備箇所では、洪水時(出水中、出水後)及び平常時における河道と環境の変化に着目してモニタリングを行う。

■ 整備イメージ



整備前のイメージ(図12-1)



整備のイメージ(図12-2)

■ 整備状況



整備前(H19)の状況(写真12-1)



整備後(H28)の状況(写真12-2)

2. 事業概要 ③阿賀川自然再生事業[継続]

(3)事業計画

- ・中州や高水敷の切下げ、樹木伐採等により、洪水時に河道内で冠水・攪乱する範囲を広げ、樹林化しにくい環境にするとともに、阿賀川の流れの作用によって、阿賀川らしい水辺環境の保全・再生・維持を図る。
- ・阿賀川自然再生計画に基づき、礫河原の再生、瀬や淵の再生、モニタリングを実施。

項目	事業計画	
	前回評価時(再評価)	今回評価時
目的	みお筋の固定化により礫河原の減少と樹林化が進行し河川環境が単調化したため、かつての阿賀川らしさである礫河原や瀬淵を有す水辺環境の保全再生を図るものである。	
事業期間	全体:平成21年度～平成30年度 【環境整備事業(国土交通省)】:平成21年度～平成25年度 整備実施 平成26年度～平成30年度 整備実施後のモニタリング実施 【関連事業(国土交通省)】:平成21年度～平成22年度	
対象区間	阿賀川(21.4～27.6km)	
総事業費	全体:約8.0億円 【環境整備事業(国土交通省)】:約5.6億円 【関連事業(国土交通省)】:約2.4億円	
進捗率	全体:約7.4億円(約93%)[H27年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約5.0億円(89%) 【関連事業(国土交通省)】:約2.4億円(100%)	全体:約8.0億円(約100%)[H30年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約5.6億円(100%) 【関連事業(国土交通省)】:約2.4億円(100%)
整備内容	礫河原の再生、瀬や淵の再生、モニタリング	

※表示桁数の関係で、合計値が不一致

2. 事業概要 ③阿賀川自然再生事業[継続]

(4) 事業投資効果

- ・阿賀川らしい礫河原、流れの再生
樹木伐採及び掘削により、洪水時の流水による冠水・攪乱を期待し、洪水流により礫河原が再生され、みお筋の固定化も解消された(写真14-1,2,3,図14-1)。
- ・動植物の生息・生育・繁殖環境の再生
礫河原を好む植物の一つであるカワラニガナが、実施後の調査で初めて確認され、その後も継続して確認されている。礫河原に依存する様々な生物が安定して生育・生息していることが確認されている(写真14-4)。

■事業の実施状況



事業実施前【H21.5撮影】(写真14-1)

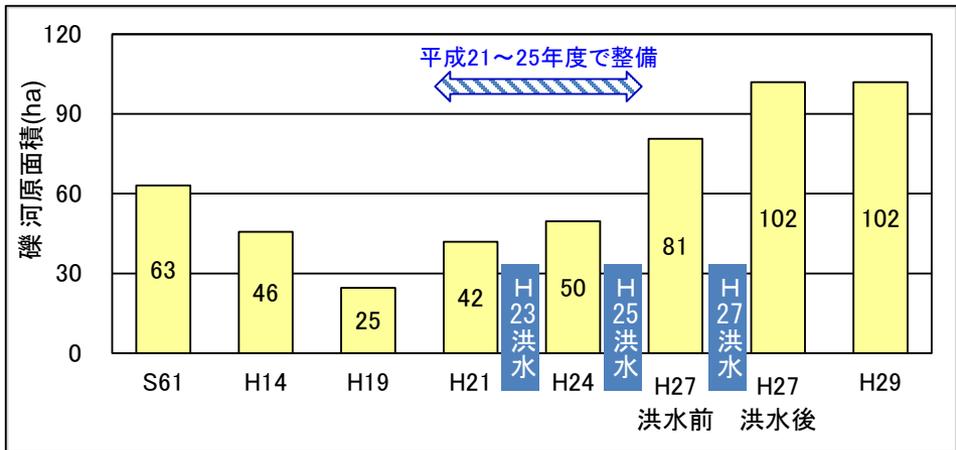
事業実施後【H24.5撮影】(写真14-2)

現況【H29.6撮影】(写真14-3)

■事業実施後の植物の生育・生息状況



実施後の状況【カワラニガナ・カワラハハコ群落】(写真14-4)



実施区間における河道内の礫河原面積の推移(図14-1)

2. 事業概要 ④阿賀野川自然再生事業[継続]

(1)事業目的

- ・阿賀野川では、砂利採取等による河床低下やみお筋の固定化により低水路と高水敷の比高差が拡大しており、砂礫河原やワンド等が大幅に減少する一方で、樹林化が著しく進行している(写真15-1,2,図15-1,2)。
- ・河原植物の生育場、アユやサケの産卵場など、本来阿賀野川が有していた多様な動植物の生育・生息・繁殖環境が失われてきている(図15-1,2)。
- ・小阿賀野川との分流点である小阿賀樋門、満願寺閘門は、施設構造及び運用上、魚類の遡上が困難な状況にある。
- ・阿賀野川自然再生事業は、これらの河川環境を再生することを目的として実施する。

■河川の状況

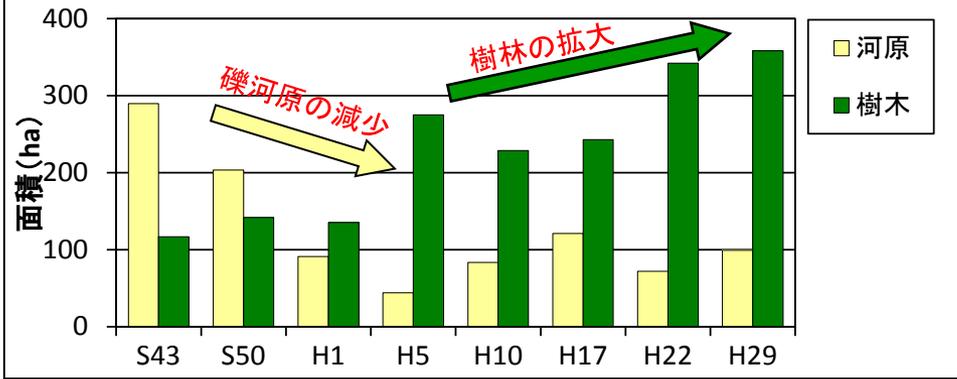


昭和50年代中期の阿賀野川(写真15-1)

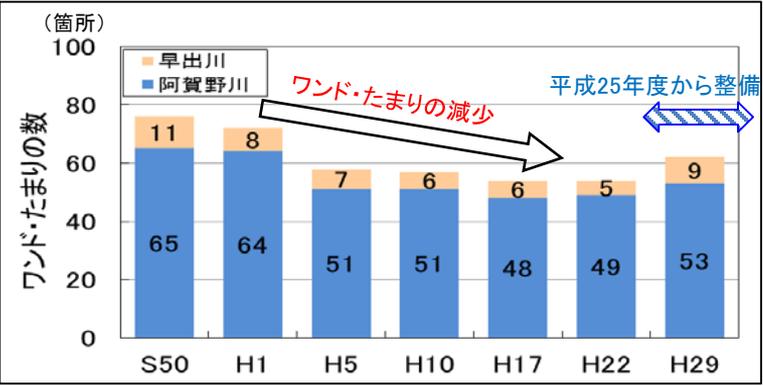


平成28年の阿賀野川(写真15-2)

■河川環境の変化



河道内の樹林・砂礫河原面積の推移(図15-1)



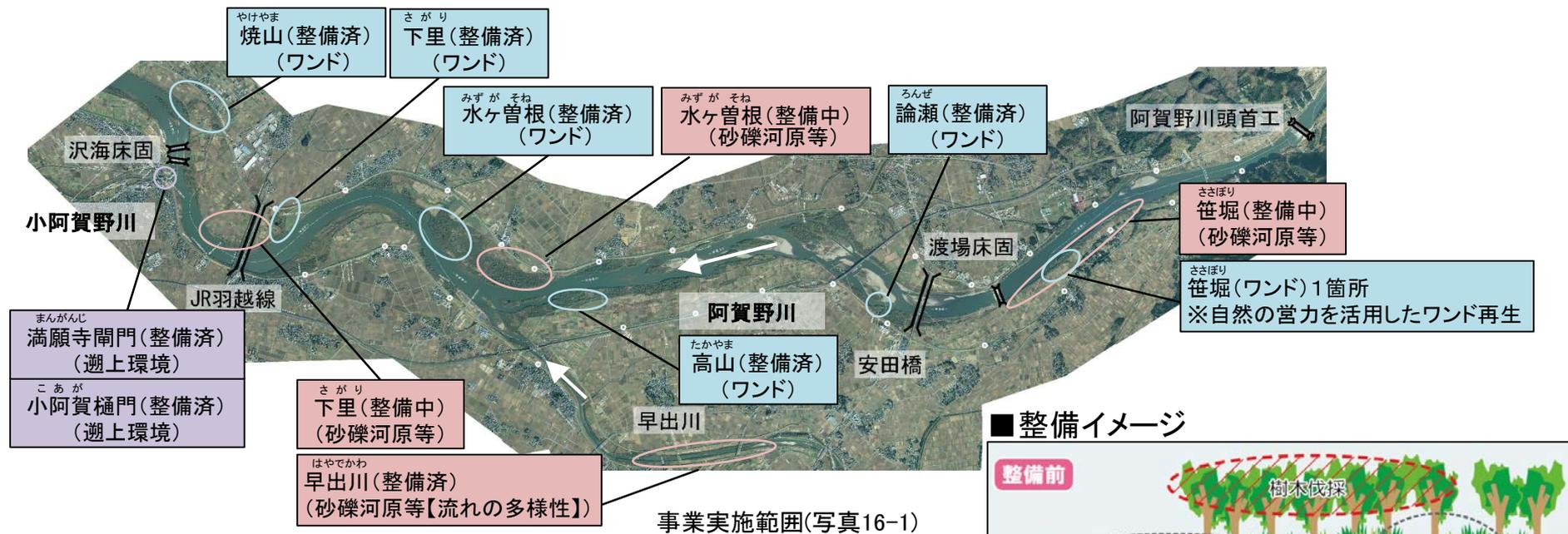
ワンド・たまりの変化(図15-2)

2. 事業概要 ④阿賀野川自然再生事業[継続]

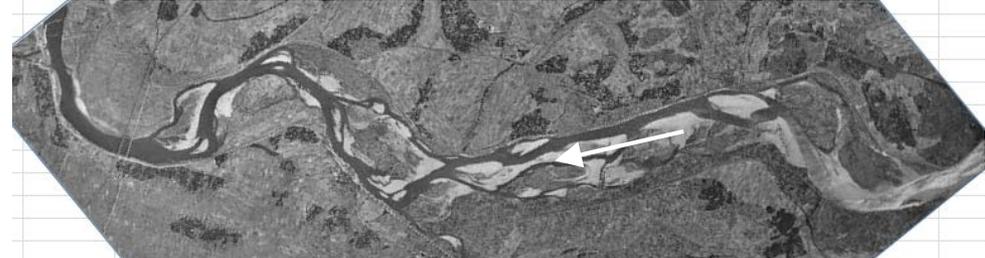
(2)事業内容

- ・高水敷・水際の切り下げ、樹木伐採等を行い、洪水流の流下により、砂礫河原、ワンド、及び多様な流れを再生・維持させる。これにより、砂礫河原特有のカワラハハコ、瀬を好むアユやサケ、止水環境で生育するウケクチウグイの稚魚等、多種・多様な動植物の生息・生育・繁殖環境を創出させる(写真16-1,図16-1)。
- ・樋門構造の改善により、魚類が遡上できる環境を確保する。

■事業実施範囲

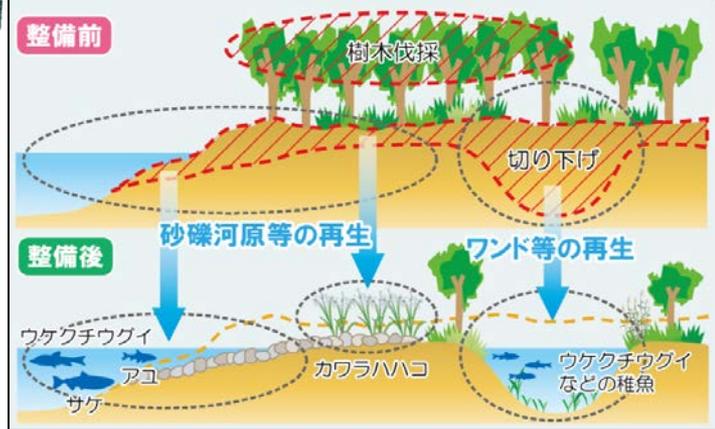


■昭和27年頃の状況



昭和27年頃の阿賀野川(写真16-2)

■整備イメージ



自然再生のイメージ【砂礫河原、ワンド等】(図16-1)

2. 事業概要 ④阿賀野川自然再生事業[継続]

(3)事業計画

- ・洪水により複列砂州等が形成・維持される範囲では「砂礫河原の再生」を、その営力が及ばない範囲では「ワンド等の再生」を適用し、阿賀野川らしいワンドや砂礫河原からなる水際の湿地等の水辺環境の保全・再生を図る。
- ・阿賀野川自然再生計画に基づき、ワンド等の再生、砂礫河原等の再生、遡上環境の改善、モニタリングを実施。

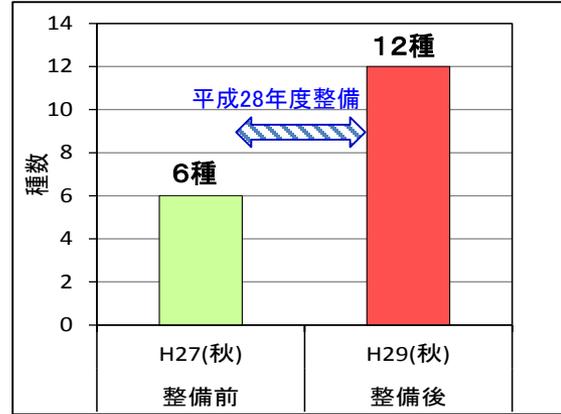
項目	事業計画	
	前回評価時(再評価)	今回評価時
目的	阿賀野川らしいワンドや砂礫河原、魚類等の遡上環境を改善するための魚道の設置及び運用を工夫し、貴重種のウケクチウグイ等の生息環境、カワラハハコ、サケ等の多様な生物の生息・生育環境を再生する。	
事業期間	全体:平成25年度～平成38年度 【環境整備事業(国土交通省)】:平成25年度～平成33年度 整備実施 平成34年度～平成38年度 整備実施後のモニタリング実施 【関連事業(国土交通省)】:平成25年度～平成33年度	
対象区間	阿賀野川(16.2～34.0km)	
総事業費	全体:約34.6億円 【環境整備事業(国土交通省)】:約12.3億円 【関連事業(国土交通省)】:約22.3億円	
進捗率	全体:約12.4億円(36%) [H27年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約4.2億円(34%) 【関連事業(国土交通省)】:約8.1億円(36%)	全体:約26.9億円(78%) [H30年度末] 【環境整備事業(国土交通省)】:約9.3億円(76%)、 【関連事業(国土交通省)】:約17.6億円(79%)
整備内容	ワンド等の再生【5箇所】(他、自然営力によるワンド等の再生1箇所) 砂礫河原等の再生【4箇所】(内、流れの多様性1箇所) 遡上環境の改善【2箇所】 モニタリング	

2. 事業概要 ④阿賀野川自然再生事業[継続]

(4)事業投資効果

- ・ワンドの整備では、堆積等により本川と隔離されていた「たまり」を掘削し、平成28年度までに5箇所ワンドの整備を完了した。整備後にはウケクチウグイをはじめとする多様な魚種や幼稚魚、水辺の湿生植物が確認された(写真18-1,2,図18-1)。
- ・早出川の多様な流れの再生では、直線的で単調な流れとなっていた区間に、平成28年度に6基の水制工を設置した結果、瀬や緩流部が形成され、カジカやドジョウを確認、沈水植物のバイカモが増加するなど、多様な流れの河川環境が再生された(写真18-3,4)。

■ワンドの整備状況



整備前の状況【論瀬地区】(写真18-1)

整備後の状況【論瀬地区】(写真18-2)

整備後の魚種の増加【論瀬地区】(図18-1)

■早出川の砂礫河原(流れ多様性)整備状況



整備前は、瀬や緩流域がない、単調な流れ

整備前の状況(写真18-3)

整備後の状況(写真18-4)

3. 事業を巡る社会情勢

(1) 地域住民・市民団体等と連携した河川管理意識の高揚

- ・阿賀川では、河川協力団体が中心となって地域住民自ら住宅地近隣の堤防除草作業を担っている。また、除草に合わせて、堤防点検を行い、堤防の変状等を発見した際に通報してもらう取り組みを行っている(写真19-1)。
- ・阿賀野川では、地域住民や市民団体の協力のもと、魚類の保全や環境保全活動、自然観察会などの活動が積極的に行われている(写真19-2,3,4)。
- ・地域住民・市民団体等の河川美化、河川環境の保全・再生や河川管理への関心が高く、水辺整備事業・自然再生事業への期待は大きい。

■活動状況



河川協力団体による除草(写真19-1)

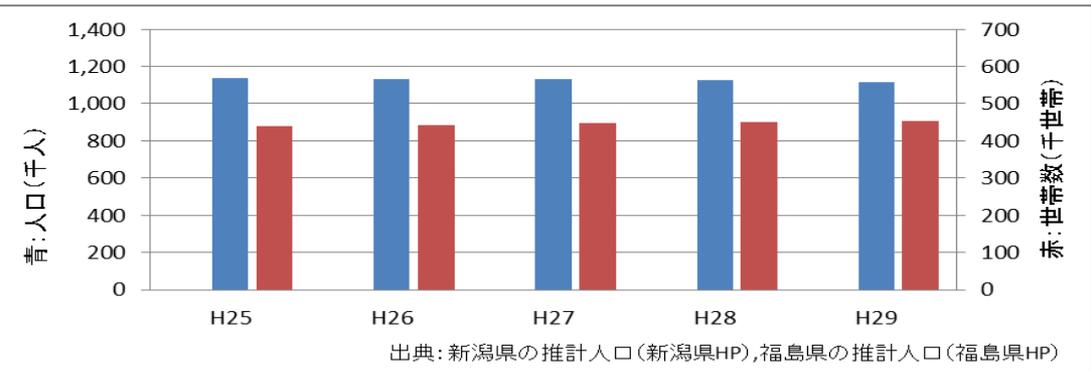
市民団体による環境学習(写真19-2)

サケの稚魚放流(写真19-3)

五泉トゲソの会による総合学習(写真19-4)

(2) 居住人口等について

・整備箇所及び受益範囲内の主要な自治体の人口はほぼ横ばい、世帯数については緩やかな増加傾向にあるが、事業実施に伴う大きな社会的変化はないものと考えられる(図19-1)。



- 対象自治体
 - ・新潟県
 - 新潟市、阿賀野市、五泉市、阿賀町
 - ・福島県
 - 会津若松市、会津坂下町、会津美里町、喜多方市、湯川村
- 5市3町1村の人口・世帯数

人口、世帯数の経年変化(図19-1)

4. 費用対効果

・便益の評価方法は事業の特性や既往実績を踏まえて「CVM(仮想的市場評価法)」を適用している。

事項	事業区分	地区名	評価範囲	世帯数	評価手法	回答数	有効回答数	支払意思額(WTP)
阿賀野川 総合水系 環境整備 事業	水辺整備事業	佐野目地区水辺整備事業	事業箇所に近接する市町村[会津坂下町、湯川村、喜多方市(旧塩川町)、会津若松市、会津美里町(旧新鶴村)]	62,745	CVM	726票	457票	323円/月/世帯
		横越地区水辺整備事業	事業箇所に近接する市町村[新潟市(江南区、秋葉区)]	56,659	CVM	718票	404票	323円/月/世帯
	自然再生事業	阿賀川自然再生事業	事業箇所に近接する市町村[会津若松市、会津美里町、湯川村、会津坂下町、喜多方市]	79,455	CVM	481票	306票	470円/月/世帯
		阿賀野川自然再生事業	事業箇所に近接する市町村[新潟市(江南区、秋葉区)、阿賀野市、五泉市、阿賀町(旧三川村)]	91,121	CVM	563票	429票	316円/月/世帯

[CVM]

CVMによる費用対効果分析では、便益のおよぶ範囲を対象に行ったアンケート調査を基に、対価として支払っても良い金額(WTP:支払意思額)を求め、WTPと調査範囲内の世帯数との積により便益を算出する。

4. 費用対効果

- ・佐野目地区水辺整備事業(第2期)は、整備済みの第1期事業と一体で、費用便益比(B/C)は1.8となる。
- ・水系全体事業に要する総費用(C)は約103億円、総便益(B)は約323億円、費用便益比(B/C)は3.1となる。

■ 阿賀野川水系全体の投資効果一覧表

	事業費※1	主な事業内容	費用(C)※2	便益(B)※2	費用便益比(B/C)
水系全体事業費	81.7億円 (11.4億円)		103.3億円 (10.9億円)	322.7億円 (36.8億円)	3.1 (3.4)
水辺整備事業	41.7億円 (4.3億円)		57.2億円 (4.1億円)	111.6億円 (22.3億円)	2.0 (5.5)
佐野目地区	24.2億円 (4.3億円)	高水敷整正、親水護岸 等	30.0億円 (4.1億円)	54.2億円 (22.3億円)	1.8 (5.5)
横越地区	17.5億円 (-)	緩傾斜堤防、親水護岸 等	27.2億円 (-)	57.4億円 (-)	2.1 (-)
自然再生事業	40.0億円 (7.1億円)		46.1億円 (6.8億円)	211.1億円 (14.5億円)	4.6 (2.1)
阿賀川	7.7億円 (-)	瀬や淵の再生、礫河原の再生、モニタリング	11.2億円 (-)	130.0億円 (-)	11.6 (-)
阿賀野川	32.3億円 (7.1億円)	ワンド等の再生、砂礫河原等の再生、遡上環境の改善、モニタリング	34.9億円 (6.8億円)	81.1億円 (14.5億円)	2.3 (2.1)

※1 支払意思額を求めた関連事業及び他事業を含む、()は残事業
 ※2 現在価値化した金額、()は残事業、費用には維持管理費含む

注:費用便益比(B/C)は、便益(B)・費用(C)が四捨五入されているため計算が合わない。
 注:費用便益分析における事業費は、消費税を除外しており、費用対効果分析実施判定票、各事業概要内の事業費と異なる。
 横越水辺整備事業、阿賀川自然再生事業は事業が完了しているため、残事業は評価対象外となる。

■ 感度分析結果

項目	残事業費		残工期		便益	
	+10%	-10%	+10%	-10%	-10%	+10%
全体事業 (B/C)	3.1	3.2	3.1	3.1	2.8	3.4
残事業 (B/C)	3.1	3.7	3.3	3.4	3.0	3.7

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

(1) 事業の必要性に関する視点

- ・水辺整備事業は、「かわまちづくり」計画などに基づき、地方自治体が行う整備と一体となって実施することで良好な水辺空間を創出するとともに、観光交流人口の拡大等、地域活性化に資するものであり、地元自治体等からの期待が非常に大きい事業である。
- ・自然再生事業は、阿賀川、阿賀野川のみお筋の固定化により、低水路と高水敷の比高差が拡大し、かつて見られた瀬や淵、ワンド、砂礫河原等が減少するという事象が起きている。このことから、アユやウケクチウグイ、砂礫河原に依存しているカワラハハコ等の生息・生育・繁殖環境が失われてきており、これらの復元による生物多様性の保全が重要な課題となっている。流域内では、地域住民やNPO等の自然環境への関心が高く、阿賀川、阿賀野川本来の自然環境を保全、再生する取り組みが強く望まれている。

(2) 事業の進捗の見込みの視点

- ・佐野目地区水辺整備事業では、第2期事業により利便性向上と多様なニーズへの対応が期待される。
- ・阿賀川自然再生事業では、これまでの取り組みにより礫河原が再生される等、良好な河川環境が形成されていると有識者から評価を頂いている。
- ・阿賀野川自然再生事業においても、有識者による「阿賀野川自然再生モニタリング検討会」を設立し、具体的な検討を始めているところであり、関係者から事業促進に対する積極的な意見を頂いている。
- ・今後も事業を継続する箇所は、事業進捗に伴う支障となる課題等がなく、着実な進捗が見込まれる。

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・現場の発生土や現地採取の礫を使用した他、新技術などを活用し、施工段階においてコスト縮減を図った。
- ・これまで、河道内樹木の繁茂による流下能力阻害を防止するため定期的な伐採を必要としたが、本事業によって洪水時に河道内で冠水・攪乱の範囲を広げることにより再樹林化の抑制が可能となり、樹木伐採・処分費の縮減が期待できる。

5. 事業の必要性、進捗の見込み等

(4) 関係する地方公共団体等の意見

福島県

国の対応方針(原案)については、異議ありません。

なお、今回追加となる箇所も含め、引き続き多くの人々が活動を展開できる良好な水辺の整備に努めてください。

新潟県

活力ある豊かな新潟県を創るため、阿賀野川総合水系環境整備の事業継続を望みます。

本事業は、良好な水辺空間の創出、観光交流人口の拡大等、地域活性化に資するものであり、本県にとって重要な事業であると認識しております。

また、全国有数の水量を誇る阿賀野川の豊かな自然環境を次世代へ受け継ぎ、さらには流域の自然と人と社会が調和した活力ある新潟県を創造するため1日も早い完成をお願いします。

6. 対応方針(原案)

対応方針(原案):事業継続

(理由)

- 当該事業は、現時点においても、その必要性、重要性は変わっておらず、事業進捗の見込みなどからも、引き続き事業を継続することが妥当であると考えます。